

令和3年度

教育に関する事務の管理及び執行の状況点検及び評価

宮城県教育振興基本計画

～志を育み、復興から未来の創造へ～

目指す姿

学校・家庭・地域の強い絆のもとで、多様な個性が輝き、ふるさと宮城の復興を支え、より良い未来を創造する高い志を持った、心身ともに健やかな子供が育っています。そして、人々が生きがいを持って、生涯にわたり、多様に学び、交流する中で、豊かな文化と活力のある地域社会が形成されています。

目標

- 1 自他の命を大切にし、高い志と思いやりの心を持つ、心身ともに健やかな人間を育む。
- 2 夢や志の実現に向けて自ら学び、自ら考え行動し、社会を生き抜く人間を育む。
- 3 ふるさと宮城に誇りを持ち、東日本大震災からの復興、そして我が国や郷土の発展を支える人間を育む。
- 4 学校・家庭・地域の教育力の充実と連携・協働の強化を図り、社会全体で子供を守り育てる環境をつくる。
- 5 生涯にわたり学び、互いに高め合い、充実した人生を送ることができる地域社会をつくる。



◆ 大河原町教育振興基本計画 ◆

「笑顔」「元気」「学び」

～志を高め 学び継ぐ ひとつづくり～



大河原町の教育振興を図るためには、地域・家庭・学校・行政がそれぞれの役割を担いながら、連携・協働し、それぞれの世代や立場に必要な人材を育成していく「ひとつづくり」が不可欠になっています。

そのために大河原町教育振興基本計画では、全ての町民が、「笑顔」で「元気」に「学び」続けられる町を目指し、「生涯学習の姿」「家庭・地域の姿」「子供の姿」「学校・教職員の姿」と対象を明確にするとともに、「ひとつづくり」の実現に必要な施策と具体策・目標値を示しています。これにより教育関係者ならびに、広く町民の理解と協力を仰ぎ、共に学び・高め合うことをねらいとしています。

◆目指す姿

1. 生涯学習の姿 生き生きと学ぶ町民
2. 家庭・地域の姿 明るい家庭 支える声が響く地域
3. 子供の姿 笑顔があふれ、元気いっぱい、学力を向上させる子供
4. 学校・教職員の姿 信頼される学校・教職員

◆教育委員会の充実

2015年4月の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正」により、大河原町では2016年度に「新しい教育委員会制度」がスタートしました。このことにより教育委員会は、さらなる教育の政治的中立と教育行政の安定性を確保し、多様化している町民のニーズに応えながら教育・文化の振興に努めるとともに、会議の公開など、開かれた教育委員会をいっそう推進します。

また、教育委員会事務局においては、教育行政における基本方針や重点施策をふまえ、家庭・地域・学校への支援や教育環境の整備・充実に取り組みます。さらに、事務の管理及び執行状況の点検・評価を的確に実施し、常に改善に努め、信頼される教育行政を実現します。

大河原町の教育の基本的方向と令和3年度重点的取組

1. 生涯学習の姿 【目標】 生き生きと学ぶ町民

◆基本的方向 1 持続可能な生涯学習の拠点整備

施 策

- (1) 町民が生涯にわたり楽しく学べる環境づくり
- (2) 「誰でも、いつでも」学べるセーフティネットの推進（学習拠点・居場所づくり）
- (3) 公民館・図書館等を活用した学習拠点づくり

主な具体策

- ①中央公民館を起点とした「にぎわい創出」の事業展開
- ②「絵本と学びのへや」を中心とした図書館事業展開
- ③「放送大学」を活用した、生涯にわたって学び続ける機会の提供
- ④金ケ瀬公民館を拠点とした金ケ瀬地区の未来型コミュニティづくり

令和3年度重点的取組

施 策	(1) 町民が生涯にわたり楽しく学べる環境づくり
主な具体策	①中央公民館を起点とした「にぎわい創出」の事業展開
目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中央公民館では、複合化施設「にぎわい交流施設」として生まれ変わった中央公民館を拠点とし、町民の教養向上だけではなく、人材育成から地域の活性化につなげていく。 ・金ケ瀬公民館では、空調設備が整備され、快適な学習環境が整ったことによる利用者及び利用率の向上を目指す。
重点的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・中央公民館では、町の有識者や専門家に依頼し、郷土史講座や大人向けの昆虫講座などを定期的の開講することで、その修了者が講師となって地域を支える担い手となるような学習環境を提供する。 ・金ケ瀬公民館では、金ケ瀬地区の地域づくり拠点施設として住民による施設運営を検討する。

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2017 年度)	達成値 (2021 年度)	目標値 (2022 年度)
1	「生涯学習の充実」に対する満足度（5段階評価）	3. 1	3. 0	3. 5
2	中央公民館年間来館者数	30, 435人	10, 078人	33, 500人
3	金ケ瀬公民館年間来館者数	11, 084人	10, 748人	12, 200人
4	貸出資料数	70, 025点	65, 937点	75, 000点
5	「絵本と学びのへや」年間来館者数	—	8, 685人	15, 000人
6	放送大学利用者数	—	41人	300人

成果 課題等	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> 中央公民館では、主催事業として「故郷の歴史を調べよう」「親子昆虫教室」「小学生書初め練習会」などの教養向上に資する講座の開催や、中央公民館を利用している文化芸術団体への支援など、人材育成から地域の活性化に繋がるための事業展開に努めた。 金ヶ瀬公民館では、施設環境整備が充実したことにより、施設利用者及び利用率の向上に努めた。 令和3年度も新型コロナウイルス感染症の影響なのか、利用者数は目標値には達しなかったものの、令和2年度より利用者増の傾向が見られた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後も、人材育成から地域の活性化に繋がるための事業展開の推進を更に進めていくことが必要であるとともに、少子高齢化に対応した事業展開も推し進めていくことが必要である。 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を継続して講じるとともに、With コロナの事業展開を進め利用促進を図っていくことが今後の課題となっている。 	
内部評価	A	目標を上回って達成した
	B	目標をほぼ達成した
C	C	目標をやや下回った
	D	目標を下回った
外部評価	<p>◇コロナ禍にあっても、全ての項目が前年比プラスとなったことは、喜ばしいことです。中央公民館は、主催事業に工夫が見られ、金ヶ瀬公民館は、快適な環境づくりが功を奏したようである。</p> <p>◇微増ではあるものの「絵本と学びのへや」の来館者数が増加したことは、町民からの認知度がアップした表れであると思う。</p> <p>◆「にぎわい創出」の為、一層の工夫改善を期待したい。</p> <p>C</p> <p>□目標値に達しなかったとはいえ、新型コロナウイルス感染がまだまだ心配される状況において、中央公民館・金ヶ瀬公民館とも来館者数が一万人を超えたことは素晴らしい。特に金ヶ瀬公民館は、施設環境の整備充実により、前年度の約2倍の来館者数となり、2022年の目標値にも近づくほどになったことは大変喜ばしい。</p> <p>□公民館等の利用促進のため、今後も with コロナを考慮した事業計画展開に期待している。</p> <p>■前年度の2倍になったとはいえ、放送大学の利用者数がなかなか伸びていない。今後も広報等で魅力を発信するなど、利用者数増加に努めてほしい。</p>	

凡例

- ◇プラス評価・意見等
- ◆改善点等の評価・意見
- プラス評価・意見等
- 改善点等の評価・意見

◆基本的方向 2 伝統文化・芸術活動等の推進

施 策

- (1) 文化財や伝統文化等の保存・継承
- (2) 芸術文化に親しめる環境づくり

主な具体策

- ⑤文化財の適切な保護と普及啓発のための事業推進
- ⑥無形文化財保持団体の活動の場の拡大
- ⑦えずこホールとの連携による芸術文化事業の推進

令和3年度重点的取組

施 策	(1) 文化財や伝統文化等の保存・継承
主な具体策	⑤文化財の適切な保護と普及啓発のための事業推進 ⑦えずこホールとの連携による芸術文化事業の推進
目的・目標	・町内の自然，風土，歴史，文化的遺産等の文化財を未来の子供たちに継承するとともに，貴重な学習資源ととらえ，学校の体験学習・調べ学習等，幅広い教育活動に活用する。
重点的取組	・文化財や伝統文化等の保存，継承と整備を行い，積極的に活用促進を図る。 ・かおり高い文化芸術を身近に鑑賞する機会を提供し，地域の文化芸術の振興を図る。

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2017 年度)	達成値 (2021 年度)	目標値 (2022 年度)
1	「文化・芸術の振興」に対する満足度（5段階評価）	3. 3	2. 0	3. 5
2	民俗資料収蔵室年間来館者数	66人	地震による危険建物判定のため見学中止、3月解体	20%増加
3	芸術文化事業 青少年小劇場・青少年劇場小公演の実施	実施	新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催中止	継続して実施
4	はたらく館への来場者数	—	—	250人
5	学芸員の配置	—	—	1人

<p>成果 課題等</p>	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年2月の地震により、大河原町民俗資料収蔵室の躯体に被害が生じ、危険建物と診断されたため、収蔵室の一般公開、小学生の社会科見学、一般町民の収蔵室見学等について中止となったもの。なお、令和4年3月に収蔵室を解体し、収蔵品については、旧大河原衛生センターに仮置きとして運搬したものである。 ・その他、文化財保護事業として、裁判所協に一里塚説明板設置、繁昌院説明板修繕、尾形家の墓・村井江三の墓標柱建て替えを実施し、地震や新型コロナに影響しない部分での文化財保護事業の推進を図った。 ・また、令和3年度から、東北大学の協力を得て本格的に古文書の調査を開始している。（令和3年度調査個所：高忠文書、竹川家文書、原田家文書、他 全9ヶ所実施） ・芸術文化事業として、巡回小劇場を大河原中学校・金ヶ瀬中学校で開催を予定して準備しておりましたが、直前に、新型コロナウイルス感染拡大防止から開催中止となったものです。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民俗資料収蔵品については、今後活用を図るため、移動展示会などを計画し実施する。 ・民俗資料収蔵室については町の実施計画に載せ、資料館設置希望を行っていく。 ・芸術文化事業の巡回小劇場（青少年劇場小公演）については、継続して実施すべき事業であるため、新型コロナウイルス対策を講じながら開催を計画していく。 	
<p>内部評価</p>	<p>A</p>	<p>目標を上回って達成した</p>
	<p>B</p>	<p>目標をほぼ達成した</p>
<p>C</p>	<p>C</p>	<p>目標をやや下回った</p>
	<p>D</p>	<p>目標を下回った</p>
<p>外部評価</p>	<p>◇民俗資料収蔵室の解体に伴い、収蔵品を各学校で展示し、子供達から大好評を得た話を聞き、実に素晴らしいと思った。是非毎年続けてほしい。</p> <p>◇東北大学の協力をいただき古文書調査が盛んに行われていることは、近年にない企画として高く評価します。今後は、企画展等を行い、町民にも大河原町の古文書に触れる機会を作ってほしい。</p> <p>◆大河原町の歴史に町民が触れ、愛郷の思いを深める場所を確保したいものである。</p> <p>B</p> <p><input type="checkbox"/>地震やコロナの影響が大いにある中、一里塚説明板設置等の文化財保護事業の推進に努めたことは良かった。</p> <p><input type="checkbox"/>本格的な古文書調査が開始されたことは喜ばしい。大河原町の歴史の一端を理解する上からも、調査の結果が楽しみである。</p> <p>■小学校社会科の調べ学習等で活用されてきた民俗資料収蔵室が地震の影響により見学できなくなったことは残念である。今後、各小学校と話し合い移動展示会等をぜひ実施してほしい。</p> <p>■コロナ対策で大変だろうが、小中学生が身近に文化芸術を鑑賞する機会である巡回小劇場を今後も開催できるよう努めてほしい。</p>	

◆基本的方向3 スポーツ振興による健康増進の推進

施策

- (1) スポーツ, レクリエーション活動による健康づくり
 (2) 総合型地域スポーツクラブ設立に向けての取組

主な具体策

- ⑧総合型地域スポーツクラブ設立に向けての取組
 ⑨町民レクリエーション大会の実施
 ⑩夏休み小学生スポーツ大会の実施
 ⑪大河原クロスカントリー大会の実施
 ⑫地域コミュニティ強化のための行政区スポーツレクリエーション活動奨励事業の補助金交付
 ⑬スポーツ少年団の育成と活動の支援
 ⑭学校体育施設開放と活用の推進
 ⑮体育施設の効率的な維持・管理
 ⑯体育協会の活動支援

令和3年度重点的取組

施策	(1) スポーツ, レクリエーション活動による健康づくり
主な具体策	⑮体育施設の効率的な維持・管理
目的・目標	スポーツ施設の安全で快適な環境づくりを進め, 町民のスポーツ活動の推進を図る。
重点的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化が進む総合体育館の建物・設備の効率的かつ計画的な修繕を進めていく。 ・総合体育館変電設備の更新を行う。 ・総合体育館と東部屋内運動場のLED照明化を行い, 快適な環境づくりとコスト削減を進める。

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2017年度)	達成値 (2021年度)	目標値 (2022年度)
1	「スポーツの振興」に対する満足度(5段階評価)	3.3	3.0	3.5
2	体育施設(総合体育館及び東部運動場)の年間利用者合計	116,058人	73,985人	122,000人
3	学校開放の年間利用団体合計	64団体	56団体	70団体

成果 課題等	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定管理料の決算時に、余剰金が出た分の一部を総合体育館トイレ改修工事に充て、トイレ5基を改修したもの。 ・体育施設（総合体育館及び東部運動場）の年間利用者合計が目標値に達しなかったものの、令和3年度の施設利用者は令和2年度より24%の利用者増となった。 <p>今後も、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を継続して講じながら、利用者増を目指します。</p> <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度から指定管理料の余剰金については、役場に戻すべき額分を歳入として調定、改修事業等については、歳出予算で計上し、契約事務を行うものとするものです。 ・体育施設（総合体育館及び東部運動場）の年間利用者については、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じながら、コロナ前の利用者数に戻れるよう周知など創意工夫を図るようNPO法人と協議していきます。 								
内部評価	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="341 837 496 887">A</td> <td data-bbox="496 837 1402 887">目標を上回って達成した</td> </tr> <tr> <td data-bbox="341 887 496 936">B</td> <td data-bbox="496 887 1402 936">目標をほぼ達成した</td> </tr> <tr> <td data-bbox="341 936 496 985">C</td> <td data-bbox="496 936 1402 985">目標をやや下回った</td> </tr> <tr> <td data-bbox="341 985 496 1032">D</td> <td data-bbox="496 985 1402 1032">目標を下回った</td> </tr> </table>	A	目標を上回って達成した	B	目標をほぼ達成した	C	目標をやや下回った	D	目標を下回った
A	目標を上回って達成した								
B	目標をほぼ達成した								
C	目標をやや下回った								
D	目標を下回った								
外部評価	<p>◇トイレ5基の改修でも、総合体育館の長年の課題である、改修工事ができたことは、一歩前進である。今後は、早急に他のトイレ改修を進めたいものである。</p> <p>◇利用者数が前年比24%増となったことは喜ばしい。しかし、目標値には程遠いので、今後の感染対策に期待したい。</p> <p>◆町内の健康づくりグループがコロナ禍にあっても、それなりの活動を継続していることは素晴らしいことである。そんなグループにもっと光を当て賞賛してあげたい。</p> <p>□総合体育館トイレが改修されたことは、大変良かった。</p> <p>■会計処理の面で遺漏のないよう今後も丁寧な処理に心掛けてほしい。</p> <p>■with コロナを考慮した、利用促進の在り方を今後も検討してほしい。</p>								

凡例

- ◇プラス評価・意見等
- ◆改善点等の評価・意見
- プラス評価・意見等
- 改善点等の評価・意見

2. 家庭・地域の姿 【目標】明るい家庭 支える声が響く地域

◆基本的方向4 学校・家庭・地域との協働による教育の推進

施 策

- (1) 地域学校協働活動，コミュニティ・スクール体制の構築
 (2) 各種団体等と連携した地域で子供を育てる体制づくり

主な具体策

- ⑰コミュニティ・スクール構築に向けた，学校教育支援の推進
 ⑱ボランティアバンクの再整備とよりよい運用
 ⑲放課後子供教室事業による子供の居場所づくりの推進
 ⑳地域学校協働本部体制の構築 ⇒ 学校教育との連携
 ㉑子ども会育成会連絡協議会の活動支援

令和3年度重点的取組

施 策	(1) 地域学校協働活動，コミュニティ・スクール体制の構築
主な具体策	⑰コミュニティ・スクール構築に向けた，学校教育支援の推進
目的・目標	・地域と学校が連携・協働し，幅広い地域住民の参画により，地域全体で子供たちの成長を支えるネットワーク基盤となる，地域学校協働本部を設置する。また，コミュニティ・スクール構築を見据え，運営体制を整備していく。
重点的取組	・地域学校協働本部とコミュニティスクールの連携を図るとともに，目的の共有化，広報，普及活動に努める。 ・学校支援ボランティア登録者の活動場面の設定と新規登録の拡充促進を図る。 ・地域連携担当教職員との連携強化を図り，関係部局・機関等とのネットワーク化を促進する。 ・地域学校協働本部設置後の継続的かつ自立的な事業運営に努める。

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2017年度)	達成値 (2021年度)	目標値 (2022年度)
1	地域学校協働本部の設立	—	2020年度設立	2021年度 までに設立
2	新ボランティアバンク設立	—	2018年度より運用	2018年度 より運用
3	ボランティアバンク登録者数 (個人・団体)	206名	個人：53名 団体：3団体	300名
4	コミュニティ・スクール体制の 確立	—	1校(南小)	5校
5	放課後子ども総合プランの推進	2校 (南小・金小)	2校 (南小、金小)	3校 (全小学校)

<p>成果 課題等</p>	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校支援ボランティアの活動については、新型コロナの関係で相対的には支援回数は減となっているものの、学校からの依頼内容により活動を行っている状況である。また、生涯学習課では引き続き学校支援ボランティアの受け入れを行っていく。 ・地域学校協働本部は、10月6日（水）に令和3年度第1回ネットワーク会議を開催し、令和3年度に学校運営協議会を立ち上げた南小からは会議の状況と、大小・金小・大中・金中からは協働教育取り組み状況と令和4年度からの学校運営協議会設立準備状況を発表していただいた。 <p>令和3年度第2回ネットワーク会議については、東船岡小学校長・住吉台小学校長・住吉台中学校長より学校運営協議会についての先進事例発表に係る研修会を予定していたが、新型コロナ感染拡大により止む無く中止となった。なお、委員の皆様には予定していた研修会の資料を送付したものの。</p> <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域学校協働本部と学校運営協議会の連携を密にし、学校・家庭・地域の活動をリンクさせて推進していく必要がある。 ・地域活動団体の発掘と、既存団体への支援と新規団体の育成が急務となっている。 	
<p>内部評価</p>	<p>A</p>	<p>目標を上回って達成した</p>
<p>B</p>	<p>B</p>	<p>目標をほぼ達成した</p>
<p>B</p>	<p>C</p>	<p>目標をやや下回った</p>
<p>B</p>	<p>D</p>	<p>目標を下回った</p>
<p>外部評価</p>	<p>◇学校運営協議会が南小だけでなく、町内全ての小中学校に広がっていかれた意義は大きいものがあります。文科省が国をあげて勧めている事業なので、一歩ずつ前に進めたいものである。</p> <p>◆地域学校協働本部事業は、支援団体が見つけれなければ、学校単独では進めることができない。今後、支援団体を育成する方法を考える必要がある。</p> <p>□大河原南小学校において、コミュニティ・スクール体制が確立し、着実に実践されていることを評価したい。他の4校においても学校運営協議会が設立され、コミュニティ・スクール体制の確立が推進されるよう期待している。</p> <p>■今後も児童生徒のために、各校と適宜連絡を取り合いながら学校支援ボランティア活動を進めるとともに、地域人材や地域活動団体の発掘に努めてほしい。</p>	

凡例

- ◇プラス評価・意見等
- ◆改善点等の評価・意見
- プラス評価・意見等
- 改善点等の評価・意見

◆基本的方向 5 家庭・地域の学びや活動の支援

施 策

- (1) 家庭教育，子育て世代等の学び支援
- (2) 各種関係機関と連携した支援体制の整備

主な具体策

- ②学校や保育園，幼稚園等を対象とした家庭教育講座の開催
- ③駅前図書館を利用した家庭教育支援事業
- ④家庭教育支援ネットワーク本部(仮)の創設
- ⑤子育てサポーター，家庭教育支援チームの活動の場の拡大，活動支援

令和3年度重点的取組

施 策	(1) 家庭教育，子育て世代等の学び支援
主な具体策	①学校や保育園，幼稚園等を対象とした家庭教育講座の開催
目的・目標	・町内における子育て支援の拡充を図ることを目的に，幼児施設や小・中学校の希望をもとに，保護者を対象とした家庭教育の場を提供する。開催に際しては，子供と保護者，保護者同士の交流を実践学習・講話を通し家庭教育力の向上をねらいとする。
重点的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・町内の小・中学校，公営認定保育園，児童施設，私立幼稚園への講座開催の連絡，周知を図る。また，希望する内容については，さまざまな分野の取組を紹介し，選択の幅を広げ，推進する。 ・小規模(無許可)保育所での家庭教育講座開催及び父親の家庭教育講座への参加を推進する。 ・子育てサポーターについては，活動の場を開拓する等の支援を図る。講座時における託児スペースの設置を町民に周知し，幅広い年代が参加しやすい環境を作る。

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2017年度)	達成値 (2021年度)	目標値 (2022年度)
1	家庭教育講座実施数	12講座	12講座中 8講座実施 (4講座コロナのため中止)	15講座
2	大河原子育てサポーター「笑」会員数	10名	12名	15名
3	家庭教育支援ネットワーク本部(仮)の創設	—	未設立	2021年度までに創設
4	「絵本と学びのへや」での家庭教育事業	—	未実施	実施

<p>成果 課題等</p>	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内保育園、児童厚生施設（児童館、児童センター、いきいきプラザ）小学校、中学校において『子育て親育ち講座』を開催し家庭教育向上に努めた。全12講座を計画し8講座は実施できたが、4講座は新型コロナ感染拡大により止む無く中止となった。 ・『子育てサポーター養成講座』は人材育成事業として重要な位置づけとしている。令和3年度は14名の受講者があり、4回の講座を行っている。また、養成講座を修了した方への子育てサポーターサークル「笑」への入会案内を行い、サポーター増を図っている。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『子育て親育ち講座』『子育てサポーター養成講座』の講座メニューについて、保護者の要望や現状の課題を鑑みて事業内容を検討していくことが受講者から求められているため、要望や課題を取り入れた事業内容を計画していきたい。 ・子育てサポーターサークル「笑」については、会員の増を図るため、全戸配布を行う生涯学習ガイドや生涯学習情報紙・キャンパスを活用しサークル会員募集の周知を図っていく。 								
<p>内部評価</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="347 887 496 936">A</td> <td data-bbox="496 887 1385 936">目標を上回って達成した</td> </tr> <tr> <td data-bbox="347 936 496 985">B</td> <td data-bbox="496 936 1385 985">目標をほぼ達成した</td> </tr> <tr> <td data-bbox="347 985 496 1034">C</td> <td data-bbox="496 985 1385 1034">目標をやや下回った</td> </tr> <tr> <td data-bbox="347 1034 496 1081">D</td> <td data-bbox="496 1034 1385 1081">目標を下回った</td> </tr> </table>	A	目標を上回って達成した	B	目標をほぼ達成した	C	目標をやや下回った	D	目標を下回った
A	目標を上回って達成した								
B	目標をほぼ達成した								
C	目標をやや下回った								
D	目標を下回った								
<p>外部評価</p>	<p>◇コロナ禍の中でも「子育てサポーター養成講座」に14名の参加者があったことは大変喜ばしいことです。「笑」の皆様熱意には、ただ頭が下がります。町にとっては、貴重なボランティアグループなので、更なる支援を行い、グループの規模拡大を期待したい。</p> <p>□コロナの関係で4講座が中止になったことは残念であるが、8講座が実施され、家庭教育の場を提供できたことは良かった。今後さらに魅力ある事業内容が計画されることを期待している。</p> <p>■計画しているように全戸配布の情報紙等を活用し、「笑」の会員増に努めてほしい。</p>								

凡例

◇プラス評価・意見等

◆改善点等の評価・意見

□プラス評価・意見等

■改善点等の評価・意見

◆基本的方向 6 地域の発展につながる多様な学びの提供

施策

- (1) 現代的かつ社会的課題に対応した社会教育事業の展開
- (2) 各種団体やボランティアの育成と活用の推進

主な具体策

- ②6 公民館事業・教室参加者の満足度向上を目指す事業推進
- ②7 ジュニア・リーダーの育成と活動支援
- ②8 青年会活動への助言と活動支援
- ②9 地域資源（人的・物的資源）を生かした昆虫展の充実
- ③0 高齢者のための生きがいづくり事業の推進
- ③1 町民文化祭の充実と文化協会の活動支援
- ③2 市民団体（NPO等）との協働・活動支援

令和3年度重点的取組

施策	(1) 現代的かつ社会的課題に対応した社会教育事業の展開
主な具体策	②9 地域資源（人的・物的資源）を生かした昆虫展の充実 ③2 市民団体（NPO等）との協働・活動支援
目的・目標	地域の活動拠点としての中央公民館において、さまざまなニーズや実態を把握し、社会教育施設として機能の有効利用を図り、地域資源を最大限生かした昆虫展を開催する。
重点的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・複合化された新しい公民館を十分に活用し、幅広い視点から昆虫展を開催し、展示会内容の充実を図り魅力発信に努める。 ・ノウハウと知識を持った民間団体の協力を得て、昆虫展事業を推進する。

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2017年度)	達成値 (2021年度)	目標値 (2022年度)
1	講座からの新規社会教育団体の発足	—	1	2団体
2	新規NPOの発足	—	未発足	1団体
3	ジュニア・リーダーの会員数	18名	20	25名
4	社会教育事業アンケート評価満足度	—	概ね高水準	増加

<p>成果 課題等</p>	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「世界・日本の昆虫展」については、令和2年度が新型コロナ感染拡大のため中止となったが、令和3年度は感染対策を十分に講じて開催したものの。 <p>来場者には、検温、記名と、更には、会場内に常時50人までの入場制限をお願いし対応した。コロナ禍での開催ということもあったのか、入場条件に誰一人として苦情を言う方は無かったものです。</p> <p>また、2年ぶりの開催にも関わらず、来場者が3日間で985名であり、一昨年の来場者636名と対比して349名の増となった。</p> <p>この「世界・日本の昆虫展」については、大河原昆虫同好会員を講師に迎え、来場者への昆虫の解説を行っていただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内小中学校5校持ち回り（1校あたり2週間位の期間）で、職員室前の廊下などをお借りしての「世界・日本の昆虫標本展示会」を開催。休み時間、昼休み時間等でほとんどの児童・生徒が見学してくれたもの。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昆虫展開催を心待ちにしていた親子も多く、企画展に対して満足いただけましたものと捉えている。 ・小中学校を対象とした「世界・日本の昆虫標本展示会」を今後も継続して開催していきたい。 ・次年度も昆虫展開催を予定していきたいが、企画の内容などに工夫を凝らし開催したい。 								
<p>内部評価</p>	<table border="1"> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> <td>目標を上回って達成した</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">B</td> <td>目標をほぼ達成した</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">C</td> <td>目標をやや下回った</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">D</td> <td>目標を下回った</td> </tr> </table>	A	目標を上回って達成した	B	目標をほぼ達成した	C	目標をやや下回った	D	目標を下回った
A	目標を上回って達成した								
B	目標をほぼ達成した								
C	目標をやや下回った								
D	目標を下回った								
<p>外部評価</p>	<p>◇昆虫展の来場者数が3日間で985名、昨年比349名増となったことは、町民の関心の表れであると同時に、企画力の向上であることを認めます。更に、町内の小中学校を持ち回り学校でも昆虫展を開催したことで、昆虫の周囲が人だかりとなる人気を博したことは、大きな成果となった。</p> <p>□2年ぶり開催の昆虫展、まだまだコロナが心配される中、一昨年より、3日間の来場者が増加し1,000人弱になったことは、大変素晴らしい。毎年開催を心待ちにしている人々が多くいること、知識豊富な方の解説など企画内容に満足していることがうかがえる。次年度も展示内容の工夫充実に努め、来場者の満足度を高めてほしい。</p> <p>□「世界・日本の昆虫標本展示会」は、町内小中学校で開催するからこそ目にする児童生徒もいる。大変素晴らしい企画であるので、次年度も内容を工夫し、ぜひ開催してほしい。</p>								

凡例

- ◇プラス評価・意見等
- ◆改善点等の評価・意見
- プラス評価・意見等
- 改善点等の評価・意見

3. 子供の姿 【目標】笑顔があふれ、元気いっぱい、学力を向上させる子供

◆基本的方向7 【笑顔】豊かな心の育成

施 策

- (1) 夢を育む「志教育」の推進
- (2) 命を大切にする教育の推進(道徳教育, 防災教育)
- (3) 「共に学ぶ」特別支援教育の推進(インクルーシブ教育)
- (4) 歴史や文化に関する教育の推進
- (5) 読書活動の推進

主な具体策

- ③1/2 成人式や立志式, 職業人の話を聴く会の実施, おおがわらの先人集の活用による夢や志の育成
- ③4 「全学級道徳授業の日」の実施を核として, 「考え, 議論する道徳」と道徳的实践力の育成
- ③5 防災訓練等を通じた自助・共助の実践力の育成
- ③6 早期発見早期支援事業による適切な就学指導の充実 ・合理的配慮・基礎的環境整備
- ③7 町教員補助員によるきめ細やかな支援の充実
- ③8 おおがわらの先人集, おおがわらの暗唱読本, 社会科副読本事業の継続と改訂
- ③9 学校司書補助員, 駅前図書館, 暗唱読本を活用した「読書のすすめ」

令和3年度重点的取組

施 策	(1) 夢を育む「志教育」の推進
主な具体策	③1/2 成人式や立志式, 職業人の話を聴く会の実施, おおがわらの先人集の活用による夢や志の育成
目的・目標	夢や志をもち, 将来に向かって切磋琢磨するたくましい児童生徒を育成する。
重点的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間や学校行事等でおおがわらの先人集を活用し, 夢や志を高め, それを実現しようとする児童生徒を育てる。(キャリア・パスポート, 志シートによる記録の充実) ・中学生「まちづくり夢・未来会議」を開催し, 次代を担う中学生に町への誇りをもたせるとともに, 町づくりに参画する意識を育てる。

施 策	(2) 命を大切にする教育の推進(道徳教育, 防災教育)
主な具体策	<ul style="list-style-type: none"> ③4 「全学級道徳授業の日」の実施を核として, 「考え, 議論する道徳」と道徳的实践力の育成 ③5 防災訓練等を通じた自助・共助の実践力の育成
目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・特別の教科「道徳」の授業を通じて, 他者とともによりよく生きる子供を育成する。 ・防災・避難訓練等を通じて, 自他の命を守る知識を身に付け, 行動できる子供を育成する。
重点的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・特別の教科「道徳」の実施に向けた教員の指導力向上を図り, 保護者や地域とともに「考え, 議論する道徳」を実践する。 ・各学校の実状に合わせた防災安全マニュアルの見直しを行い, 学校・地域に応じた防災避難訓練やボランティア組織の活用を促す。

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2017年度)	達成値 (2021年度)	目標値 (2022年度)
1	全国調査「児童生徒質問紙」 将来の夢や目標を持っていますか。 （「当てはまる」の割合） 【小6、中3対象】	小 78.3% 中 44.3%	小 68.7% 中 44.9%	小 80% 中 50%
2	全国調査「児童生徒質問紙」 自分にはよいところがあると思えますか。 （「当てはまる」の割合） 【小6、中3対象】	小 52.7% 中 21.9%	小 27.0% 中 30.4%	小 60% 中 30%
3	就学相談体制の確立と実施	—	※就学時検診の改善	2018年度 開始
4	おおがわらの先人集, おおがわらの 暗唱読本, 社会科副読本の改訂	先人集('15) 暗唱読本('16) 社会科副読本('13)	'20 暗唱読本 '21 先人集 改訂・増刷済 '22 社会科副読本 改訂・増刷予定	暗唱読本('20) 先人集('21) 社会科副読本('23)
5	町内小中学校図書貸し出し数の増加	79,013冊 '19年度実績 77,612冊 (R3.3月 臨時休業) '20年度実績 76,752冊 (R3.4~6月 臨時休業)	<u>89,703冊</u> '17年度比 <u>13.5%増加</u>	'17年度比 20%増加

成果 課題等	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学2年生を対象にした「まちづくり夢・未来会議」を2年ぶりに実施し、よりよいまちづくりについて考えさせるきっかけとなった。 ・ おおがわらの先人集については内容の一部見直しを行い、改訂・増刷を完了することができた。 ・ 年間の図書貸し出し数は‘17年度比13.5%の増となった。目標の20%増加には届かなかったが、小中学校とも貸し出し数を増やしてきている。今後も図書に興味を持たせる工夫を継続したい。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全国調査「児童生徒質問紙」における「将来の夢や目標を持っていますか」との質問に対し、「当てはまる」と回答した割合は、小学6年、中学3年ともに目標をやや下回った。立志式や2分の一成人式などの行事をとおして、一人ひとりに自己を見つめさせ、将来の夢や目標を持たせるよう指導を継続していきたい。 ・ 全国調査「児童生徒質問紙」における「自分にはよいところがあると思いますか」の質問に対し、特に小学6年生において目標の60%を大きく下回った。授業をはじめ、さまざまな行事等においてより一層自己肯定感や自己有用感を持たせるような指導が必要である。 								
内部評価 B	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>目標を上回って達成した</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>目標をほぼ達成した</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>目標をやや下回った</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>目標を下回った</td> </tr> </table>	A	目標を上回って達成した	B	目標をほぼ達成した	C	目標をやや下回った	D	目標を下回った
A	目標を上回って達成した								
B	目標をほぼ達成した								
C	目標をやや下回った								
D	目標を下回った								
外部評価 B	<p>◇図書の貸し出し数が‘17年度比13.5%となったことは、県内屈指の学力を誇る大河原町のレベルを高める為の基礎となり、とても意義深い結果となった。</p> <p>◆「将来の夢や目標を持っていますか」「自分にはよいところがあると思いますか」の質問に対し、中学生は‘17年度比数ポイント改善が見られ、良好な精神状況になっていることが伺えます。ただし、小学校のマイナスが気になります。自己肯定感を高めるための働きかけに期待したい。</p> <p>□2年ぶり開催の「まちづくり夢・未来会議」を通して、中学2年生に町民の1人としての意識、住みやすいまちづくりを考えるきっかけとなったことは良かった。</p> <p>□改訂・増刷が完了した「おおがわらの先人集」を大いに活用してほしい。</p> <p>□小中学校とも、年間図書貸出数が増加したことは素晴らしい。今後も読書に興味を持ち、家庭でのゲーム・携帯だけでなく読書の習慣化が図れることを願っている。</p> <p>■全国調査「児童生徒質問紙」における、小学6年生の自己肯定感の低さが心配である。学校・家庭・地域で、様々な活動を通して、多くの人たちから一人一人のよさを見つけ認め褒めるような場面を意識して設定するなど、どの児童も自己肯定感や自己有用感もてるような働きかけを期待したい。</p>								

凡例

- ◇プラス評価・意見等
- ◆改善点等の評価・意見
- プラス評価・意見等
- 改善点等の評価・意見

◆基本的方向 8 【元気】健やかな身体の育成

施 策

- (1) 「はやね・はやおき・あさごはん（ルルブル運動）」等による生活習慣の定着
- (2) 学校給食を中心とした食育の推進
- (3) 体力向上への取組の推進

主な具体策

- ④〇「明日青のつどい」による健全育成体制の継続
- ④①給食センターの活用や栄養教諭による学校訪問指導による食育の充実
- ④②町陸上大会、部活動等を通じた体力・運動能力の向上

令和3年度重点的取組

施 策	(1) 「はやね・はやおき・あさごはん（ルルブル運動）」等による生活習慣の定着
主な具体策	④〇「明日青のつどい」による健全育成体制の継続
目的・目標	・生活習慣の改善とともに、何事にも最後まであきらめることなく取り組むことができる「たくましい」子供の育成に努める。
重点的取組	・「明日青のつどい」や学校生活等を通じて、自他を認め合い、自己肯定感・自己有用感を高めるための取組を行う。

施 策	(3) 体力向上への取組の推進
主な具体策	④②町陸上大会、部活動等を通じた体力・運動能力の向上
目的・目標	・体育の授業や業間での遊び、部活動を通じて、生涯を通じて体を動かすことが好きな児童生徒を育成する。
重点的取組	・「たくましい」児童生徒を育成するため、町内小中学校で各教科や行事等で独自の取組「やり抜くタイム」を位置づける。 ・仙台大学との連携により、効果的な体力・運動能力の向上について研究し、運動好きな児童生徒を育成する。

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2017年度)	達成値 (2021年度)	目標値 (2022年度)
1	全国調査「児童生徒質問紙」朝食を毎日食べていますか 【小6、中3対象】	小 85.0% 中 83.1%	小 83.9% 中 82.7%	小 90% 中 85%
2	県「学習意識調査」ゲーム・携帯時間(2時間以上)の縮減 【小5、中1対象】	小 21.9% 中 36.6% '20年度実績 小 29.9% 中 45.3%	小 35.4% 中 45.0%	小 20% 中 30%
3	給食残食量の縮減	約120kg/1日	101kg/1日 15.8%縮減	20%減

4	全国体力・運動能力テストの総合評価A・B合計の割合 全国との乖離をプラスにする	小男 -9.3 女 -5.2	小男 -16.5 女 +0.6 ※金小、南小のみ ※大小は一部種目を実施しなかったため、総合評価はなし	小 男女とも ±0
		中男 +10.4 女 +7.7	中男 -5.6 女 -15.0	中 +0以上 継続

成果 課題等	《成果》	
	<ul style="list-style-type: none"> 大河原小学校では、令和元年度から継続して仙台大学との連携により、年間36回の運動指導を行い、児童の体力・運動能力の向上を図った。特に投げる動作においては全国平均を上回るなど、効果が現れている。 給食残食量は目標とする20%減は達成できなかったものの、やや改善傾向が見られる。 	
内部評価	《課題》	
	<ul style="list-style-type: none"> ゲーム・携帯を2時間以上使用している児童生徒の割合は、小中学生ともに目標を達成できなかった。2時間以上使用している中学生は45%、小学生も35%以上と年々増加傾向が見られる。児童生徒及び保護者に対し、ゲーム・携帯の長時間使用による悪影響について引き続き指導・啓発していく必要がある。 全国体力・運動能力テストの総合評価A・B合計の割合については、大河原小は一部種目を実施しなかったため、総合評価のデータは得られなかった。金ヶ瀬小と大河原南小の男子は全国平均を大きく下回る結果となった。また、中学生男女も全国平均を下回り、特に女子が全国との乖離が大きかった。今後も仙台大学との連携による体力向上事業を金ヶ瀬小と大河原南小にも拡充して、町全体の児童生徒の体力向上を図っていききたい。 	
C	A	目標を上回って達成した
	B	目標をほぼ達成した
	C	目標をやや下回った
	D	目標を下回った
外部評価	<p>◇投げる遊びが少なくなったことで、投げる力が減少していたところに、仙台大学との連携による運動指導を年36回も行ったことで、運動能力の向上が見られたことは、大きな成果であったと言える。</p> <p>◆iPadを1人1台配布される時代になったことで、ゲーム、携帯電話、スマートフォンを2時間以上使用することの縛りが必要なのかを検討する必要が生まれて来たと思う。</p> <p>□コロナ禍においても、仙台大学との連携事業が年間36回実施された。その成果が運動能力テストに着実にあらわれており、評価したい。今後、大河原南小学校や金ヶ瀬小学校にも拡充され、町全体としての児童の運動能力の向上を期待している。</p> <p>■コロナの影響により、児童生徒が身体を動かす時間が減り自宅時間が増えたことで、ゲーム・携帯の利用時間や運動能力テスト結果に大いに関係したと考える。Withコロナでの生活時間の見直し新しいルールづくりなどが必要と考える。</p> <p>■献立を工夫するとともに給食指導や食育の授業などを通して、今後も残量が少しでも減るよう努めてほしい。</p>	
C		

◆基本的方向 9 【学力】確かな学力の育成

施 策

- (1) 基礎的・基本的な学習の充実
- (2) 活用する力を育成する取組の推進
- (3) 言語力の育成・言語活動の充実
- (4) 国際理解教育，情報通信教育の推進

主な具体策

- ④③学力向上策「学習評価PDCAサイクル」の継続による基礎学力の定着
- ④④全国学力・学習状況調査の全国平均正答率を上回るための方策
- ④⑤おおがわら算数チャレンジ・数学オリンピック事業の継続と他教科への発展
- ④⑥暗唱読本等を活用した言語活動の充実
- ④⑦外国語教育充実に向けたALT配置の継続と活用の充実
- ④⑧ICT教育への先進的取組（タブレットPCの活用促進）

令和3年度重点的取組

施 策	(1) 基礎的・基本的な学習の充実
主な具体策	④③学力向上策「学習評価PDCAサイクル」の継続による基礎学力の定着
目的・目標	・少人数による学習を丁寧に行うことで基礎学力を定着させ，児童生徒の学力保障と学力向上をねらう。
重点的取組	・少人数学級の実現や教科による少人数学習等のきめ細かな指導をおこなうため，町内小中学校に任期付き教員（町採用教員）を増員配置する。

施 策	(4) 国際理解教育，情報通信教育の推進
主な具体策	④⑦外国語教育充実に向けたALT配置の継続と活用の充実 ④⑧ICT教育への先進的取組（タブレットPCの活用促進）
目的・目標	・英語・外国語教育，国際理解教育の充実および情報通信教育の推進により，子供たちが次代をたくましく生きるための素地を育てる。
重点的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校における英語・外国語活動の充実に向け，継続してALTを配置する。 ・外国の学校との交流活動を促進することで，多様な価値観や広い視野をもった人材を育成する。 ・GIGAスクール構想の推進により，タブレットPCの活用やプログラミング教育を推進することで，児童生徒の情報活用能力や論理的な思考力を向上させ，「主体的，対話的で深い学び」による学力向上の一助とする。 ・小・中学校に「指導用デジタル教科書」（全教科）を導入し，必要に応じて活用することで生徒の理解を促す。 ・緊急時における家庭学習のための通信支援を行う。

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2017 年度)	達成値 (2021 年度)	目標値 (2022 年度)
1	全国調査の平均正答率の乖離をプラスにする(国語, 算数・数学の乖離平均) 【小6、中3対象】	(2019 年度) 小 +2.3 中 -1.8	小 +0.05 (国+2.3, 算-2.2) 中 -0.4 (国+0.4, 数-1.2)	小 +0以上継続 中 ±0
2	算数チャレンジ・数学オリンピック事業の継続・発展	実施	各校で実施 ※台風8号の影響による	理科・英語等での 取組実施
3	A L T 招致人数	2人	3人 (民間委託)	3人
4	ICT 機器の整備状況	児童生徒 6.2 人 に 1 台	児童生徒 1 人 に 1 台	児童生徒 3 人 に 1 台

成果 課題等	《成果》	
	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力学習状況調査における平均正答率は小学6年では全国平均とほぼ同程度となった。中学3年は全国平均を下回っているものの、その差は縮まってきている。 町算数チャレンジ・数学オリンピックについては、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実施を見合わせた。令和3年度は台風8号による影響で一室に会して実施することはできなかった。しかし、各校の先生方の協力を得て、別日に学校単位で実施することができた。 民間委託（ジョイトーク）によりALT3名を継続配置し、各学校の英語の授業を中心に活用を進めた。文科省の「英語教育実施状況調査」によると、令和3年度の中学3年生においては、英検3級程度以上の力のある生徒は町内57.9%であり、全国平均を10.9ポイント上回っている。 GIGA スクール構想の実現に向け令和2年度末に児童・生徒1人1台整備したiPadについて、ICT支援員の協力を得ながらルール作りや環境設定を進め、令和3年度末には効果的に授業で活用しており使用頻度も多くなってきている。 	
内部評価	《課題》	
	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度からの家庭への本格的な持ち帰りへ向け、児童・生徒の家庭でのインターネット接続環境の調査や持ち帰りの試行などの準備を進めていく必要がある。 町算数チャレンジ・数学オリンピックのほかに、理科や英語等での取組拡充については実施に至っていない。 	
B	A	目標を上回って達成した
	B	目標をほぼ達成した
	C	目標をやや下回った
	D	目標を下回った

<p>外部評価</p> <p>B</p>	<p>◇英検3級以上 57.9%とは、見事な結果です。英語学習の環境を整えたことに加えて、中学校の英語指導力向上が表れたと思う。</p> <p>◇平均正答率が、小・中学校とも県内トップクラスになっていることは、大変喜ばしいことである。指導されている先生方、教育委員会の支援に感謝したい。</p> <p>□タブレットPCを児童生徒1人1台整備したことを大いに評価する。日々の授業で効果的に活用していくことを期待している。</p> <p>□中学3年生の英検3級程度以上の割合が全国平均を10ポイント以上上回っているなど、ALT3名の継続配置は大いに効果を上げている。</p> <p>□人的支援は、児童生徒の学力向上に効果的であるとともに、授業改善や教職員のスキルアップにも大いに貢献している。</p> <p>■小学校国語の+2.3は素晴らしい。中学校国語も+0.4と全国平均を上回ることができた。小学校算数・中学校数学が課題である。特に、小学校算数の頑張り底上げを期待している。</p>
----------------------	---

凡例

- ◇プラス評価・意見等
- ◆改善点等の評価・意見
- プラス評価・意見等
- 改善点等の評価・意見

4. 学校・教職員の姿

【目標】信頼される学校・教職員

◆基本的方向10 学校組織力の向上

施 策

- (1) チーム学校による創意・活力に満ちた学校づくりの推進
- (2) 保・幼・小・中連携教育，異校種間連携の推進
- (3) 学校・保護者・地域による学校評価の推進

主な具体策

- ④9カリキュラム・マネジメントによる開かれた教育課程の推進
- ⑤0新学習指導要領実施に向けた，学校体制の確立
- 51 幼・保・小連携による接続カリキュラム，スタートカリキュラムの作成
- 52 コミュニティ・スクール体制の構築 ⇒ 生涯学習との連携

令和3年度重点的取組

施 策	(2) 保・幼・小・中連携教育，異校種間連携の推進
主な具体策	51 幼・保・小連携による接続カリキュラム，スタートカリキュラムの実践
目的・目標	・幼稚園・保育所・小学校間での連携を密にするとともに，小学校におけるスタートカリキュラムを実施することで小1プロブレムを緩和する。
重点的取組	・小学校新1年生がスムーズに学校生活や学習活動に入れるよう，小学校におけるスタートカリキュラムを年間計画に位置付け実施する。

施 策	(3) 学校・保護者・地域による学校評価の推進
主な具体策	52 コミュニティ・スクール体制の構築
目的・目標	・学校・保護者・地域の連携による「地域とともにある学校」づくりを推進するため，令和3年度は大河原南小学校にコミュニティ・スクールを設置し，他の町内小中学校においても令和4年度にコミュニティ・スクールの設置に向けて体制を整える。
重点的取組	・既存の組織や仕組みをもとに，コミュニティ・スクール事業の推進及び体制の構築を図る。

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2017年度)	達成値 (2021年度)	目標値 (2022年度)
1	学校評価アンケートによる「各学校の「よく当てはまる」の回答」の全平均率	34.1%	31.7%	45%
2	町内英語・外国語担当者会，研修会の実施	—	研修会は各校単位で実施	2018年度
3	接続カリキュラム，スタートプログラムの作成・実施	—	実施	実施
4	コミュニティ・スクール体制の確立	—	'21年度南小 '22年度からは全校で導入	5校

成果 課題等	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度に南小学校にコミュニティ・スクールが導入され、年2回の学校運営協議会を開催した。これまでの地域と一体となった取組を継承しつつ、地域とともにある学校づくりの推進を図っている。 ・町外国語活動・外国語担当者会については、各校または各中学校区単位でALTを加えた授業提供を実施し、英語の指導力向上に有意義な研修にすることができた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学校の学校評価アンケートにおいて「よく当てはまる」と回答した割合の全平均は、昨年度のほぼ同じ31.7%となり、目標に届かなかった。学校ごとに「分かりやすく、意欲の持てる授業になっている」「不登校の予防に努めている」「基本的な生活習慣が身に付いている」「身の回りの整理整頓ができる」「大河原ルールを守っている」など、肯定的な回答の割合が少ない項目については今後改善を図りつつ、学校の取組について積極的な情報発信に努める。 	
内部評価 B	A <input checked="" type="radio"/> B C D	目標を上回って達成した 目標をほぼ達成した 目標をやや下回った 目標を下回った
外部評価 B	<p>◇地域と一体になった教育活動を展開することは、学校運営をスムーズにする意味でも大事なことである。しかし、コロナ禍にあっては極めて困難な状態にあったはずである。その中においても、年2回学校運営協議会を開催し、地域を大切に進めた、南小に拍手を送りたい。</p> <p>□大河原南小学校でコミュニティ・スクール体制が確立し、地域とともにある学校づくりの推進を実践していることは素晴らしい。児童や保護者、地域の人たちにとって魅力ある学校づくりの体制になるよう期待している。</p> <p>■保護者や地域の人たちに、学校だよりやホームページなどを活用して学習状況や活動の様子を分かり易く発信することで、学校に対する理解も深まり、学校評価アンケート結果も良い方向になっていくと思います。</p>	

凡例

- ◇プラス評価・意見等
- ◆改善点等の評価・意見
- プラス評価・意見等
- 改善点等の評価・意見

◆基本的方向 1 1 教職員の資質・指導力の向上

施 策

- (1) 町内教職員研修の充実
- (2) 校内実践研究の推進と各種研修機会提供の充実
- (3) 教職員の多忙軽減の推進

主な具体策

- 53 町内教職員研修の継続実施
- 54 「教師指導力向上研修」の実施
- 55 ICT機器等の整備，部活動支援による業務改善，給食管理システムの導入
(統合型校務支援システム，給食費の公会計化の実現)

令和3年度重点的取組

施 策	(2) 校内実践研究の推進と各種研修機会提供の充実
主な具体策	54 「教師指導力向上研修」の実施
目的・目標	各学校での「教師指導力向上研修」の実施により，校内実践研究の推進と教職員研修の充実を図る。
重点的取組	・各学校において，大学教授等を招聘し教育課題解決に向けた校内研修会を実施することで教員の指導力向上と児童生徒の学力向上を図る。

施 策	(3) 教職員の多忙軽減の推進
主な具体策	55 ICT機器等の整備，部活動支援による業務改善，給食管理システムの導入
目的・目標	・教職員の働き方改革の一助として，ICT機器の活用推進，GIGAサポートスタッフの配置や部活動支援員の拡充，給食管理システムの導入により，業務の改善・軽減を図る。
重点的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT支援員の配置やICT活用研修会を通じて，教員のスキル向上を目指し，児童生徒一人一台のタブレットPCの有効な活用促進を図る。 ・出退勤システムによる勤務状況の把握，留守番電話配備による勤務時間外対応の削減を継続するとともに，統合型校務支援システムの導入による校務の省力化や部活動支援員の増員により，教職員の業務の改善をさらに推進する。 ・給食管理システムの導入により公会計化を実現し，教職員による給食費の集金等の業務を軽減する。

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2017 年度)	達成値 (2021 年度)	目標値 (2022 年度)
1	学校における教育の情報化の実態等に関する調査「教員のICT活用指導力の状況」(わりができる)	14.9% '19年度実績 21.9%	15.1% ('20年度末)	30%
2	時間外勤務の縮減 (各校種 1日あたりの平均時間)	('17年度予想値) 小 1時間54分 中 3時間20分 ('18年度実測値) 小 2時間42分 中 3時間31分 ('19年度実測値) 小 2時間29分 中 2時間54分 ('20年度実測値) 小 1時間36分 中 2時間34分	小 1時間47分 5.3%縮減 ('17年度比) 中 2時間31分 24.5%縮減 ('17年度比)	20%縮減
3	ICT校務管理システムの普及率	20%	100%	100%

成果 課題等	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の働き方改革の一環として、町内小中学校全てに統合型校務支援システムを導入し、運用している。可能な限り通信票の様式や表記を統一するなど、事務処理の軽減を図っている。 ・令和3年度における月80時間を超える教職員は、のべ100名となり、令和2年度比約13%の減、令和元年度比約52%の減となった。 ・令和4年度から給食の公会計化の実現できるように管理システム導入の準備を行った。 ・ICT支援員の配置により、iPadの活用に係る教職員の負担軽減や教職員のスキル向上を図った。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大河原町としての「教職員の働き方改革に関する取組方針」をもとに、「令和2年度よりも小学校は毎日5分、中学校は30分早く帰ろう」をモットーに取り組んだ。1日あたりの勤務時間は中学校では令和2年度とほぼ同程度、小学校では10分以上の増加となった。引き続き業務改善を図っていく。 ・ICTの活用については日々アップデートする必要がある、「わりにできる」と回答した教員の割合は令和元年度の実績よりも減少した。ICT支援員の活用を継続し、教師のスキル向上につなげていきたい。 	
内部評価	A	目標を上回って達成した
B	<input checked="" type="radio"/> B	目標をほぼ達成した
	C	目標をやや下回った
	D	目標を下回った
外部評価	<p>◇多忙を極める教育環境の中で、何とか働きやすい教育環境を作ろうという当局の働きが見て取れる。他市町村では、とても真似できない統合型校務支援システムを100%導入できた意義は実に大きく、県内のモデルと言っても過言でない体制となっている。更に、給食の公会計化によって、教員の給食費を集める負担を大幅に軽減化し、プロのICT支援員を配置することで、iPadの活用を活気的なものにする大きな効果が期待できます。</p> <p>加えて、時間外勤務の縮減が、過労死ラインを超えていた中学校で、目標値を1年前に達成できたことにより、安心して働ける職場環境づくりに大きく貢献できたものと思います。</p> <p>□統合型校務支援システムの導入適用により、事務処理の軽減が図られ、教職員の時間外勤務の縮減に繋がっていることを評価する。ただ、家庭に持ち帰る仕事(丸付けなど)が増えていないかにも留意してほしい。</p> <p>□ICT支援員の配置は、教職員のスキルアップや負担軽減に大変有効で評価できる。今後もぜひ継続してほしい。</p> <p>□給食管理システムの導入による公会計化の実現は、教職員の集金等の業務軽減にも繋がりを評価する。給食費未納が増えないような方策をぜひ検討してほしい。</p>	

凡例

- ◇プラス評価・意見等
- ◆改善点等の評価・意見
- プラス評価・意見等
- 改善点等の評価・意見

◆基本的方向 1 2 安心して学べる教育環境づくりの推進

施 策

- (1) いじめ・不登校対策，教育相談等の充実
- (2) 学び支援のためのセーフティネットの構築（就学援助，育英・奨学金等）
- (3) 学校危機管理体制の充実（防災教育）
- (4) 家庭・地域への情報発信の推進
- (5) 教育施設の適切な維持・管理と適切な運用

主な具体策

- 56 スクールカウンセラー，スクールソーシャルワーカー活用の充実
- 57 おおがわら子どもの心のケアハウス事業の継続
- 58 各種援助・支援等の適正受給
- 59 安全担当主幹，防災主任による学校危機管理マニュアルの整備，防災訓練，体制の確立
- 60 学校だより，ホームページ，緊急メール配信，広報おおがわら等による積極的な情報発信
- 61 学校施設の老朽化対策と少子化に伴う施設の適切な運用についての検討

令和3年度重点的取組

施 策	(1) いじめ・不登校対策，教育相談等の充実
主な具体策	56 スクールカウンセラー，スクールソーシャルワーカー活用の充実 57 おおがわら子どもの心のケアハウス事業の継続
目的・目標	・スクールカウンセラー，スクールソーシャルワーカー，ケアハウス事業を継続し，不登校等に悩む児童生徒，保護者の不安を軽減するとともに，復帰に向けた学力の保障を行う。
重点的取組	・学校とスクールカウンセラー，スクールソーシャルワーカー，ケアハウス間での連携をさらに密にし，不登校の予防と早期対応を目指す。 ・心のケアハウス事業を継続するとともに，多様な学びの場を提供し，児童生徒の学力の保障を軸とした，学校復帰を目指す。

施 策	(5) 教育施設の適切な維持・管理と適切な運用
主な具体策	61 学校施設の老朽化対策と少子化に伴う施設の適切な運用についての検討
目的・目標	・老朽化した学校施設について，優先順位をつけ改修や長寿命化対策等を行う。
重点的取組	・大河原中学校体育館の増改築等について，計画に基づいて建設を行う。 ・金ヶ瀬小学校の遊具，体育館屋上防水等について改修工事を行う。 ・中学校トイレクリーン事業としてトイレ清掃を業者に委託するとともに，スクールサポートスタッフを継続配置し，子供が安心して学べる環境づくりを推進する。 ・適正規模の学校の在り方を検討する。

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2017 年度)	達成値 (2021 年度)	目標値 (2022 年度)
1	おおがわら子どもの心のケアハウス事業の継続	県補助事業による実施	県補助事業により継続	町独自財源による継続実施
2	町内小中学校の不登校者出現率の縮減	小 0.15% 中 4.14% ‘19 年度実績 小 2.08% 中 4.30% ‘20 年度実績 小 2.36% 中 4.20%	小 2.15% 中 6.04% (R4.3月末)	小 0%に近づける 中 3%以下に
3	各学校区における地域連携防災訓練の実施満足度	34.9% ‘19 年度実績 31.7%	訓練実施せず	40%
4	学校評価アンケートによる「学校からの情報提供等」(各学校のよくあてはまる等の項目)	41.5% ‘20 年度実績 34.4%	37.0%	50%
5	建設40年を経過する学校施設の大規模改修・長寿命化の実施	40%	R3 年度 大中体育館 増改築	60% 大中体育館等

<p>成果 課題等</p>	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成27年度から始まった子どもの心のケアハウスの運営は、令和3年度も県補助事業(人件費のみの補助)により継続し、不登校児童生徒への支援の中核となる「教育支援センター化」を進めている。不登校児童生徒及びその保護者を中心に「心サポート機能」「自立サポート機能」「学びサポート機能」を充実させ、大きな成果を上げてきている。また、夏休み中や土曜学習会の実施など、学習支援においても重要な役割を果たしている。 老朽化が激しかった大河原中学校屋内運動場について、増改築工事を行い新屋内運動場及び防災備蓄倉庫を整備した。 令和3年4月に白石市で発生した防球ネット支柱折損による死傷事故を受け、実施予定であった専門家による建築物の定期点検に、工作物や機器等(フェンスやバックネット、植栽など)も点検内容に追加して実施した。指摘箇所については、危険性の高いものから順次修繕を行っている。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内の不登校児童生徒は、全国平均を上回る高い水準で出現し、年々出現率が高くなっている。学び支援室や別室、サポートルームなど、子どもたちが安心して学べる居場所を確保するとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、心のケアハウスとの連携強化、定期的な教育相談部会等をとおして、適切なアセスメントにより、不登校の対応、未然防止等を図っていく。 学校施設の多くが建設から30年以上経過しており、老朽化が激しい状態である。今後、計画的に改修や長寿命化事業を行い、施設の長寿命化を図っていく必要がある。 								
<p>内部評価</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="347 1059 496 1111">A</td> <td data-bbox="496 1059 1385 1111">目標を上回って達成した</td> </tr> <tr> <td data-bbox="347 1111 496 1162">B</td> <td data-bbox="496 1111 1385 1162">目標をほぼ達成した</td> </tr> <tr> <td data-bbox="347 1162 496 1214">C</td> <td data-bbox="496 1162 1385 1214">目標をやや下回った</td> </tr> <tr> <td data-bbox="347 1214 496 1256">D</td> <td data-bbox="496 1214 1385 1256">目標を下回った</td> </tr> </table>	A	目標を上回って達成した	B	目標をほぼ達成した	C	目標をやや下回った	D	目標を下回った
A	目標を上回って達成した								
B	目標をほぼ達成した								
C	目標をやや下回った								
D	目標を下回った								
<p>外部評価</p>	<p>◇不登校を減らすため、心のケアハウスを中心に各種サポート事業を展開し、更に、夏休み学習会、土曜学習会などにも果敢に挑戦する姿が見られ、苦悩しながらも不登校を食い止める姿勢を評価したい。</p> <p>◆不登校出現率が年々高くなっている現状を、総力を上げて変えていく必要がある。考えられる対策を施した中での検討は、困難を極めますが、県や他の相談機関等の指導を受けながら、何とか頑張っ欲しいと願うばかりである。</p> <p>□不登校児童生徒への支援や保護者の心の支えとなっている「心のケアハウス」事業が継続されることを評価したい。さらに「教育支援センター」化を進め、少しでも不登校出現率の改善に繋がるよう願っています。</p> <p>□大河原中学校屋内運動場が増改築され、体育活動ばかりでなく多くの行事等で効果的に使用できるようになったことは素晴らしい。さらに、防災備蓄倉庫を整備し、防災施設としての機能を果たしていくことを期待する。</p> <p>■今後も児童生徒の安全や学校施設が地域で果たす役割等も見据え、老朽化が激しい施設の改修や長寿命化を図ってほしい。</p>								